

# GPS カメラによる電子地図上の建造物抽出に関する提案

坂本憲昭（法政大学経済学部）

## 1. はじめに

GPS（Global Positioning System）機能付きコンパクトデジタルカメラ（以下、GPSカメラと略す）による位置情報の利用が、ここ数年で急速に拡大している<sup>1),2)</sup>。本研究では活用をより現実的なものにするために、GPSカメラで測位した建造物を、測位した経緯度を使って電子地図に登録された建造物のなかから抽出するアルゴリズムについて提案する。そのような事例のひとつとして、防災分野における利用があげられる。地震などにより建造物等が損害を受けて住所表記や表札等が確認できない場合、記録したい損害家屋の経緯度をGPSにより測位し、あらかじめ経緯度が登録された電子地図に照らし合わせることで、現在地や損害家屋の把握ができる。そのときに現場写真を登録することで、罹災証明書（全壊、大規模半壊、半壊の認定）の迅速な発行につながり、復旧に役立つことが指摘されている<sup>3),4),5)</sup>。GPSカメラであれば測位と写真撮影を一緒におこなうことができるため効率的であり、最新機種でも3万円以下で入手できるためコスト的にも導入しやすい。また、個票データ（総務省統計局 事業所・企業統計調査）に経緯度を付与する研究が進められており<sup>6),7)</sup>、地図に掲載されていない事業所を現地調査する際、安価で一般の調査員が操作しやすい測位機器として、経緯度と事業所名や住所表記を一緒に記録できるGPSカメラは有用である。その測位結果と地図とのマッチングという作業も利用事例のひとつである。

しかしながら、おもに次の理由から、測位した対象とは異なる建造物を電子地図上に登録された建造物のなかから抽出する可能性がある。ひとつの原因は、GPSカメラなどの民生機器に使われる安価なGPSチップでは、時には100mを越える大きな誤差が存在する<sup>1),8)</sup>。対策として同じ位置で複数回測位することが考えられるが、誤差分布は正規分布で適切に近似できないことが指摘されており<sup>9)</sup>、また、著者の定点測位実験でも測位値は偏りなくばらつく。そのため精度が必ずしも向上するものではない。さらなる原因は、GPSカメラの測位誤差がゼロだったとしても、測位位置と電子地図に登録されている対象の建造物の経緯度との“ずれ”である。

解決のためには、

- 防災分野の研究事例では、現場にパソコンを持ち込んで位置を補正<sup>3),4)</sup>
- 誤差を低減することを目的とした安価なポータブルGPS受信機の研究・開発<sup>10)</sup>
- 捕捉した衛星数が少ない場合などの測位計算に関する提案<sup>11),12)</sup>

などの補正や測位精度向上を目指した研究があげられる。これらの研究とは異なり、文献13) は、現地で測位した建造物を測位結果の経緯度で電子地図に照らし合わせたときに、正しい建造物を抽出するための測位方法と測位結果を処理するアルゴリズムを提案した。正しいとは、測位した建造物と電子地図から抽出された建造物が一致することである。提案内容は以下の条件を前提にしている。

- ◆ 一般の調査員が簡単に操作できる市販のGPSカメラをそのまま使用する
- ◆ 一般の調査員が簡単に実施できる測位方法である

文献13) は、実証実験により単純に建造物の正面1か所で測位するよりも、提案手法によれば正しい建造物の特定がより確実になることを示した。しかしながら、測位のたびに衛星の捕捉と計算を最初からやり直すコールドスタートによる測位実験であったため、使用したPanasonic LUMIX DMC-TZ10（2010年3月発売）では、測位に最低でも5分以上を要した。当機種のホットスタートによる測位間隔も5分であり、現地で次々に測位するためには5分以上の間隔をあける必要がある。ホットスタートでは、最初はコールドスタートで測位し、2回目以後は衛星の軌道情報を記憶している状態から測位計算を始めるため、コールドスタートよりも測位に要する時間が短い。そこで本稿では、短時間で調査を済ませるためにホットスタートで測位時間の間隔が短いCASIO EX-HG20G（2010年11月発売）を使用する。さらに、文献13) で提案したアルゴリズムの内容を改善し、最後に提案手法の効果を得るための条件を導く。

## 2. GPS機能付きカメラについて

各メーカーのGPSカメラの取り扱い説明書に誤差の記載はなく、一部の製品に“数百メートルの誤差を生じる場合がある”との記載だけがある。そこで、はじめに機種別の誤差を検証する。真値として国土地理院の日本経緯度原点（日本における地理学的経緯度を定めるために基準となる点。写真 1 参照）にGPSカメラをおいてコールドスタートにより各10回測位する。測位自体ができないと検証できないため、補足した衛星数が5個以上の条件による結果を有効とした。測位結果を表 1 に、あわせて参考値として文献13)で使用したGPSカメラの結果を示す。距離の計算はHubenyの公式を用いる<sup>10)</sup>。

GPSカメラの誤差については、文献8),13)のほかにもひとつの指針としてRMS（Root Mean Square 測定値の約70%が存在する誤差の円の半径）が 10m を指摘する資料が多い。GPSの精度としては一般にRMSが使われているが、表 1 に示すように、いずれの機種でも緯度と比べて経度の誤差が大きい傾向がみられる。本研究ではこの結果を踏まえ、のちに提案するアルゴリズムにて、緯度の誤差10m、経度の誤差10m、または経度の誤差が大きい傾向から経度の誤差20mとして検討することにする。

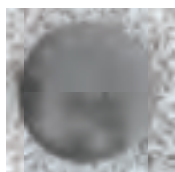


写真 1 日本経緯度原点

表1 カメラによる原点計測の結果 (m)

		DMC-TZ10*	EX-H20G
緯度	平均誤差	1.0	4.2
	標準偏差	5.3	6.3
	最大誤差	9.5	21.2
経度	平均誤差	0.3	17.5
	標準偏差	13.5	11.8
	最大誤差	34.6	39.3
平均二乗偏差 (RMS)		15.9	30.3

\* 文献13)

### 3. 測位方法と抽出アルゴリズムの提案

無料で利用できる地図の Web サービスには、経緯度を入力することにより、その経緯度と登録された建造物のなかで最も距離に近い（ロジックが未公開であるため推測である）建造物を示す機能がある。本研究は、これらの Web サービスのなかで、従来研究と多くのカメラメーカーが利用している Google Maps のデータを利用し、電子地図が抽出する建造物の確度を高める手法を提案する。本研究で用いる GPS カメラは、Google Maps と同じ WGS84（World Geodetic System 1984）の測地系である。

提案の背景を述べると、図1に示すように測位位置★①は道路上であるが、Google Maps が示す建造物の経緯度は建造物の中心位置▲②と推測され、その位置的な違いがある。その結果、図1の①の測位に対して②を抽出しなければならないが、①と②の位置の違い、および③の測位誤差があり、Google Maps は④の建造物を抽出してしまう。

この問題を解決するために、建造物は一般に道路に面して建築されていることから、文献13)では以下に示す測位方法とデータの記録を提案した。

#### 〈測定データ〉

- (1)道路に沿って測定対象の建造物の両角で測位する。
- (2)道路の方角を記録する。道路と平行な直線を考え、その直線の傾きを北 0[deg]から時計回りの方向で南 180[deg]までの範囲で表現する。
- (3)道路に対する測定対象の位置を記録する。上記(2)の直線に対する測定対象の建造物の位置として、北を上にして「直線の上側（右側）」、「直線の下側（左側）」の2種類で表現する。

図2を用いて説明すると、対象建造物は太線でなぞったマンションであり、★で示す位置2か所で測位をおこなう。さらに北を 0[deg]とした道路の方角（時計回り。矢印の角度）を測定する。方角については、多くの GPS カメラには方角を測定するコンパス機能があるが、電子コンパスによる単独測定、または現地での実測ではなく地図から求めてもよい。図2の場合、道路の角度は 160[deg]、対象建造物の位置は「直線の上側」となる。ここで、角による測位は建造物の正面で測位するよりも天空への視界が開ける場合があり、衛星の捕捉に有利という効果がある。

次に、〈測定データ〉(1)～(3)を Google Maps のデータに照らし合わせ、まずは、該当する建造物を抽出する考え方について説明する。

① 図3に示すように、2か所の測位位置（記号：★）における経緯度の各誤差範囲を

矩形（記号：□）で与える。

- ② 矩形の角  $P_{1a}$  と角  $P_{2a}$  を結ぶ直線を考え、その中点  $c_1$  を考える。すべての角の組み合わせ（ $P_{1a} \sim P_{1d}$  と  $P_{2a} \sim P_{2d}$ ）を考えると中点は 9 点となる。以下では例として  $c_1$  について述べる。
- ③ 図 4 に示すように、図 3 の中点  $c_1$  を通り、<測定データ> (2) で求めた道路の方角を傾きとした直線  $m$  を求め、中点  $c_1$  で直交する直線を  $n$  とする。直線  $m$  は図 3 の角  $P_{1a}$  と角  $P_{2a}$  を結ぶ直線とは異なることに注意されたい。この提案は、測位とは独立して得られる方角を利用するものである。
- ④ 直線  $n$  上で中点  $c_1$  から距離  $\ell$  離れた位置を予測位置  $e_1$  とする。 $e_1$  は直線  $n$  上を  $c_1$  を中心にして<測定データ> (3) と同じ側で与える。中点は 9 点あるから予測位置も 9 点となる。この原理は、直線  $m$  は道路に沿った直線であり、直線  $m$  に沿って建造物が位置する。そして、中点で直交した直線  $n$  上に電子地図が登録している経緯度の位置があるとみなすことにある。

①～④の計算手順を整理し、建造物を抽出するアルゴリズムを次に示す。

#### <建造物抽出のアルゴリズム>

(1) 予測位置 9 点を求める。①～④の手順を整理すれば、図 5 に示すように 2 か所の測位位置（記号：★）を結んだ中点  $c$  を通る直線  $m$  と  $c$  で直交する直線  $n$  を求め、 $c$  から距離  $\ell$  離れた直線  $n$  上の点  $e$  を求める。 $e$  を含み、かつ、 $e$  を中心として図 3 に示した経緯度の誤差範囲を与える。その結果、前述の④9 点と同じ予測位置（図 5 記号：○）が得られる。

(2) <測定データ>(3)を満足して、予測位置に最も直線距離が短い（この距離を  $k$  とする）位置に存在する電子地図上の建造物を抽出する。

(3) 予測位置 9 点から得られた建造物 9 棟の順位付けを行う。

文献 13) では、(3) において距離  $k$  の昇順に順位付けをした。1 位であれば正しい建造物を抽出できたと考えると、測定対象として選んだ 8 棟の建造物のうち、1 位が 5 棟、2 位が 2 棟、抽出失敗が 1 棟という結果であった。

本研究では、改善のために(3)の 9 棟において同じ建造物の頻出数の降順による順位付けを示す。これは、可能性が高いという多数決の判定もあわせて示すことで確度を高めることを目的としている。文献 13) の実験に本手法を適用した結果、1 位の 5 棟、抽出失敗の 1 棟には変化がなかったが、2 位の 2 棟がともに 1 位の抽出に改善した。



図 1 GPS カメラによる経緯度情報の取得結果のデジタル地図表記



図 2 観測者が測定した位置と方位

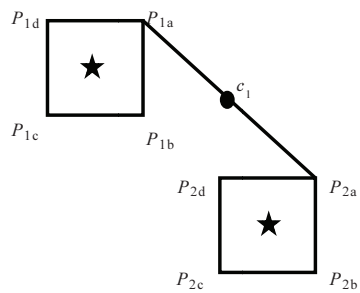


図 3 GPS カメラによる計測誤差の範囲

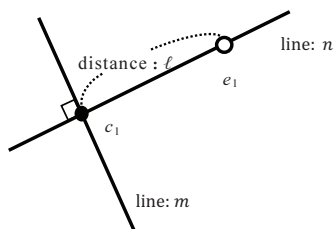


図 4 建物位置の計算

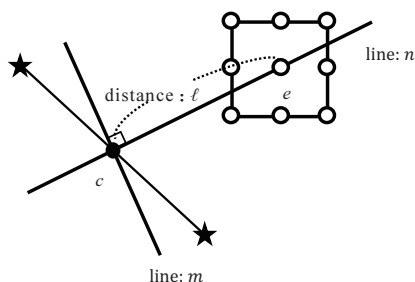


図 5 予測位置の計算方法

#### 4. 実験および考察

##### (1) 東京都文京区都道 435 号

都道 435 号の両側に位置する建造物について、1 節で示した EX-HG20G によるホットスタートによる測位で実験をおこなった。建造物の位置を図 6、抽出結果を表 3 に示す。建造物の大きさはさまざまであり距離  $l$  は一意に定まらないが、図 6 に示した建造物群の平均値（都道右側  $l=14\text{m}$ 、左側  $l=11\text{m}$ ）を用いた。以下に表 3 の内容と記号を説明する。

No.1：建造物の正面（図 1 の ①）で測位をおこない、提案手法を用いずに建造物を抽出した結果である。

No.2：図 5 の誤差範囲がゼロの場合である。予測位置  $e$  から最短距離の建造物を示す。記号○は正しい建造物、そのうち記号●は間違った建造物の抽出を示す。

No.3：図 5 の  $c$  点を測位位置 2 か所（図 2 の ★）の結果から求めずに、No.1 で用いた建造物の正面（図 1 の 1 ①）で測位した結果をあてはめたものである。図 5 に示すように予測位置は 9 点となるから抽出された建造物ごとの頻出数を記載している。図 5 の矩形の大きさは、No.4～No.6 の結果から、もっとも良い No.4 と同じ大きさを用いた。

No.4～No.6: Fig.3, Fig.5 における矩形の大きさを 2 節で検討した結果から表 2 で与える。min（最小値）は文献 13) の手法である 9 棟のうちで最短距離の建造物を記号○で示し、そのうち記号●は間違った建造物である。num（抽出された建物数）は本提案手法である頻出数を記載している。

表 2 観測者が演算で調整を必要とするパラメータ

No	2	3	4	5	6
緯度の誤差	0	10	10	10	20
経度の誤差	0	10	10	20	20

以上の結果に対して比較検討すべき事項を示す。

- アルゴリズム適用の有無 (No.1, No.2 の比較)
- 測位位置 1 か所と 2 か所 (No.3, No.4 の比較)
- 誤差 (矩形) の大きさ (No.4~No.6 の比較)
- 最短距離 (文献 13)と頻出数 (本提案) (min, num の比較)

表 3 の結果から、正面で測位した結果をそのまま用いれば、すべての建造物において異なる建造物を抽出する。提案するアルゴリズムを適用することにより (No.2 以降)、著しい改善がみられる。No.2~No.4 を比較すれば、正面 1 か所の測位 (No.3) よりも提案する 2 か所の測位 (No.2, No.4) に効果がある。No.2 と No.4~No.6 を比較すれば、No.4 がすべて正しい建造物を抽出している。

「音羽ハウス」「都民住宅アーバンシティー音羽」では 1 位を抽出しているが頻出数が少ない。これは建造物が小さいことが原因と考えられる。図 7 に示すように原理上も<条件> 建造物の道路に面する幅>誤差の大きさを満足する必要がある。図 7 は左端 (A~E) が建造物の中心位置、右側の破線矩形が誤差 (図 5) の大きさ 3 種類を示す。破線上の記号は、左端 A~E のなかで最短距離を示す。C が正しい建造物とすると、<条件>を満たせば予測位置 9 点すべてが正しい建造物を抽出する。確認のために、<条件>右辺の誤差の大きさを 10m として、建造物の幅が 10m 以下で並ぶ地域で検討をおこなう。

## (2) 東京都江東区都道 319 号

都道 319 号沿いの建造物を対象に実験をおこなう。建造物の位置を図 8、抽出結果を表 4 に示す。上段下段の違いは日付を変えて測定したものであり、表現内容は表 3 と同じである。距離  $l$  は 5m を用いた。

表 4 から「サンプル豊洲」以外はほとんど正しく抽出できていない。「サンプル豊洲」の道路に面する幅は 22.8m であり、そのほかは 10m 未満である。前述の<条件>を確認するために、実験(1)(2)の結果から建造物の幅と頻出数の最大値の関係を図 9 に示す。図 9 から 20m 以下の幅では頻出数が減少していく傾向がわかる。

## 5. キャリア会社による位置情報

この節では参考としてキャリア会社による位置情報で同様な検証をおこなう。しかしながら、現実の災害時にキャリア会社による通信や街中に設置されている WiFi 信号に障害が発生すればその復旧を待つ必要がある。その場合 1 節で述べたように GPS が唯一の位置情報取得手段となろう。実験条件を以下に示す。

位置情報確認手段：NTT docomo LTE Xi

<http://www.nttdocomo.co.jp/xi/index.html> (2013 年 10 月 31 日現在)

測定場所：本稿 4(2)で検証した地区



測定位置に対して取得された位置情報の誤差を表5に示し、一例を図10に示す。図10では記号「○」が測定位置、記号「矢印アイコン」取得された経緯度、記号「Aバルーン」が Google Maps が抽出した建造物（都道319号）である。この結果は、日常生活において使用されているスマートフォンの地図アプリによる精度と比較して誤差が大きく、GPS カメラのように外れ値はなかったが本稿で扱ってきたデータと同様である。したがって、本稿の提案手法を適用することで正しい建造物を抽出できることが期待できる。

提案手法を適用した結果を表6に示す。「メゾン豊洲」以外は候補を検討する必要もなく、すべて正しい建造物を抽出した。図11に GPS カメラによる経緯度（4節(2)の測定結果、記号「バルーン」）と本測定結果（記号「□」）を示すが、GPS カメラの結果に比べて本結果の誤差の方が大きい、データ間のばらつきが均等になっていることがわかる。そのため図5のcの位置がより正確になり、良好な結果が得られたと推測されるが、キャリア会社のデータによる位置情報の計算方法は公表されていないため詳細は不明である。GPS のように単独で測位する場合には誤差がばらつく傾向になるが、キャリア会社による位置情報の場合には電波強度や電波状況によるため測定原理が異なるため、誤差の傾向も異なる。

## 6. おわりに

本研究は、GPS カメラにより現地で測位した結果を用いて、電子地図に登録された建造物のなかから測位対象とした建造物を抽出するための測位方法と抽出アルゴリズムを提案した。提案手法は、調査のために数多くの測位機器を購入することを鑑み、安価な GPS カメラを用いて一般の調査員が簡単に実施できるという特徴がある。1節で述べたように防災マップや個票データに経緯度が付与されていれば、そのデータベースに対して本手法が適用可能である。今後の課題として、短時間で測位可能な他機種 GPS カメラによる実験、〈条件〉を満足しない場合に対する改善があげられる。

最後に、比較のためにキャリア会社の位置情報による実験結果をあわせて示し、測定原理が異なる場合でも同様な誤差を生じる場合、提案手法を適用することで正しい建造物を抽出できることを示した。

**謝辞：**本研究は科学研究費補助金（課題番号：22330070）の一部助成を受けたものである。





図 6 計測対象とした建物

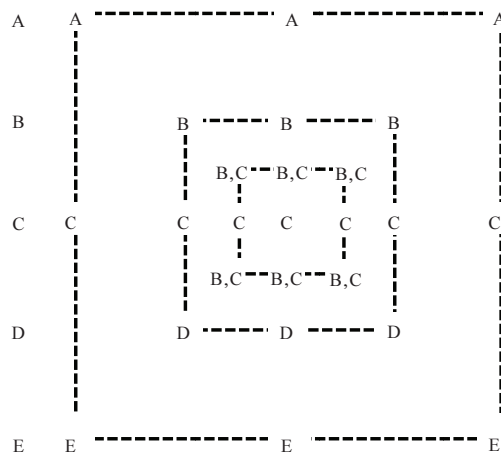


図 7 推定地点に最も近い建物と誤差量の関係



図 8 計測対象

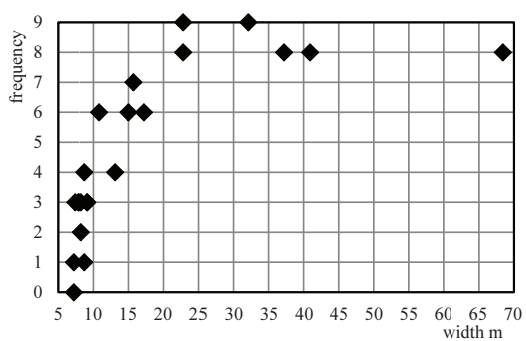


図 9 (1)(2)No.4 による建物の間口の大きさと建物の度数の関係



図 1 0 観測地点及び NTT ドコモ LTE Xi で計測された経緯度



図 1 1 GPS カメラ (4(2)節) と NTT ドコモ LTE Xi (5 節) が計測した経緯度

## 参考文献

- 1) 特集「決め手は位置情報」, 日経エレクトロニクス, 3 月 7 日号, 43/71 (2011)
- 2) GPS 搭載デジタルカメラの可能性, アサヒカメラ, No.6, 121/131 (2011)
- 3) 岡田, 山本, 増田, 福山, 伊藤, 中瀬, 南部, 小倉: 災害発生に備えたデータ整備と防災計画への時空間情報システムの活用, 地理情報システム学会講演論文集, Vol.15, 135/138 (2006)
- 4) 古戸, 佐々木, 臼井, 福山, 角本: 被災地の情報収集と整理-時空間情報処理による危機管理技術の研究開発(6), 地理情報システム学会講演論文集, Vol.17, 173/176 (2008)
- 5) 小千谷市役所, 中越大震災における小千谷市の取り組み,  
[kenmane.kensetsu-plaza.com/bookpdf/29/fa\\_03.pdf](http://kenmane.kensetsu-plaza.com/bookpdf/29/fa_03.pdf) (2013 年 3 月 20 日現在)
- 6) 森: 統計調査における地点情報の把握による統計の情報価値の新たな展開について, 法政大学経済学部学会経済志林, Vol.78, No.3, 249/280 (2011)
- 7) 森: The GPSed Datasets and the Possibility of Exploring the Micro-based Concept of Regional Potentiality, 法政大学経済学部学会経済志林, Vol.79, No.1, 125/140 (2011)
- 8) トランジスタ技術編集部編: GPS のしくみと応用技術, CQ 出版社 (2009)
- 9) 桑, 武富, 佐藤, 横矢: GPS 測位の信頼度と外れ値を考慮した動画像と GPS からのカメラ位置・姿勢推定, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.110, No.188, 229/236 (2010)
- 10) M. YONEKAWA, T.TANAKA: Implementation of an Efficient High-Accuracy Model for Personal GPS Receivers, SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration, Vol.3, No.3, 206/212 (2010)
- 11) 野村, 田中, 米川: GPS を用いた 3 衛星下における測位アルゴリズム, 第 25 回センシングフォーラム (計測自動制御学会), Vol.25, 263/267 (2008)
- 12) 田中, 松下: 市街地での衛星測位の精度改善に関する研究, 測位航法学会, 平成 22 年度全国大会 (2010)
- 13) 坂本, 森, 近藤, 小沢: 電子地図に反映するための GPS 機能付きカメラによる測位に関する検討, 情報処理学会 Fit2011, 函館短期大学, N-032, 481/488 (2011)
- 14) 国土地理院 Web サイト, 測地部, 便利なプログラム・データ, 測量計算, 計算式  
<http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/algorithm/> (2013 年 3 月 20 日現在)

表3 提案したアルゴリズムによる建物選択の結果(4節(1))

建物名	No.1	選択された建物	No.2	No.3	No.4		No.5		No.6	
				num	min	num	min	num	min	num
音羽サンハイツ	都道435号	音羽サンハイツ	○	4	○	7	○	6		5
		クレイン音羽				2		3	●	3
		清水印刷紙工								1
		光文社本社ビル		5						
光文社本社ビル	都道435号	光文社本社ビル	○	8	○	8	○	8	○	5
		音羽サンハイツ		1		4		1		2
		光文社第二ビル								2
光文社第二ビル	護国寺SIAビル	光文社第二ビル	○		○	6		5	○	4
		イトーピア音羽		6		3	●	3		3
		光文社本社ビル				3		1		2
		文京音羽郵便局		3						
イトーピア音羽	オトワイースト	イトーピア音羽	○	2	○	6	○	6	○	6
		光文社第二ビル				3		3		3
		文京音羽郵便局		7						
文京音羽郵便局	護国寺SIAビル	文京音羽郵便局	○	4	○	8	○	8	○	6
		イトーピア音羽		5		1		1		3
東急ドエルアルス音羽	護国寺SIAビル	東急ドエルアルス音羽	○		○	9	○	9	○	7
		文京音羽郵便局		4						1
		三井音羽ハウス								1
		イトーピア音羽		5						
音羽ハウス	プライズ音羽	音羽ハウス				3		2		
		サンビューハイツ音羽				2		2		1
		一般住宅B	●			2	●	1		1
		一般住宅C			●	2		3		3
		そのほか						1		各1
		プライズ音羽		3					●	
		音羽コート		6						
八千代保育園	音羽コート	八千代保育園	○		○	8	○	8		7
		一般住宅C				1		1	●	2
		音羽コート		9						
護国寺SIAビル	都道435号	護国寺SIAビル	○	2		6		4		3
		花音		3	●	2	●	2		1
		中銀音羽マンション				1		2		3
		オトワイースト		4				1	●	1
		八千代保育園								1
都民住宅アーバンシティ	光文社本社ビル	都民住宅アーバンシティ		1		4		3		3
		大林ビル	●	4	●	3	●	3		1
		杉本ビル		4		2		3	●	4
		花和ビル								1

min:最小値, num: 抽出建物数

表4 提案したアルゴリズムによる建物選択の結果(4節(2))

建物名	No.1	選択された建物	No.2	No.3	No.4		No.5		No.6	
				num	min	num	min	num	min	num
サンプル豊洲	都道 319 号線	サンプル豊洲	○	9	○	9	○	6	○	7
		一般住宅						3		2
	都道 319 号線	サンプル豊洲	○	5	○	8	○	6	○	6
		一般住宅		4		1		3		3
APEX 豊洲	APEX 豊洲	APEX 豊洲		5		1		2		2
		小滝酒店	●	1	●	5		3	○	3
		一般住宅		2		3	●	4		3
		そのほか		1						1
	都道 319 号線	APEX 豊洲	○	1	○	4		3		2
		小滝酒店		5		4	●	3		3
		一般住宅		3				1		
		そのほか				1		2	●	4
豊洲医院	都道 319 号線	豊洲医院		3		1		2	○	2
		APEX 豊洲	●	1	●	5		3		2
		小滝酒店				1		2		2
		ケーキ屋		2				1		1
		そのほか		3		2	●	1		2
	都道 319 号線	豊洲医院		1		2		2		1
		APEX 豊洲	●	4	●	3	●	2	●	1
		小滝酒店		1		1		2		2
		ケーキ屋		1		1		2		2
		一般住宅		2		2		1		1
		そのほか								2
ケーキ屋	ケーキ屋	ケーキ屋		4		2		3		1
		豊洲医院	●	1		3	●	2		2
		APEX 豊洲				2		1		2
		メゾン豊洲		3						
		そのほか		1	●	2		3	●	4
	ケーキ屋	ケーキ屋	○	3		3	○	2		2
		豊洲医院		2	●	2		1		1
		APEX 豊洲						1		1
		メゾン豊洲		1		1		1		1
		そのほか		3		3		4	●	4
メゾン豊洲	都道 319 号線	メゾン豊洲		3		3	○	3		1
		ケーキ屋	●	4	●	4		1		2
		豊洲医院		1				1	●	2
		そのほか		1		2		4		4
	メゾン豊洲	メゾン豊洲	○	2		3	○	2		2
		ケーキ屋		2	●	2		1		1
		豊洲医院						1		
たつみ BM	都道 319 号線	そのほか		5		4		5		6
		たつみ BM		5	○	3		3		1
		メゾン豊洲	●			4		2		2
		ヤマケンビル		4				1		1
	荻原商店 (地図外)	そのほか				2	●	3	●	5
		たつみ BM		3		3	○	3		1
		メゾン豊洲	●	4		4		2		2
		ヤマケンビル						1	●	2
		そのほか		2	●	2		3		4

min:最小値, num: 抽出建物数

表 5 観測対象に対する誤差 (5 節)

建物名	誤差(m)
サンフル豊洲	47.4
APEX 豊洲	33.8
豊洲医院	44.8
ケーキ屋	40.0
メゾン豊洲	61.9
たつみ BM	74.7
平均値	50.4
標準偏差	15.1

表 6 提案したアルゴリズムによる建物選択結果 (5 節)

建物名	No.1	選択した建物	No.6(num)
サンフル豊洲	都道 319 号線	サンフル豊洲	9
APEX 豊洲	都道 319 号線	APEX 豊洲	9
豊洲医院	都道 319 号線	豊洲医院	9
ケーキ屋	都道 319 号線	ケーキ屋	9
メゾン豊洲	都道 319 号線	ケーキ屋	9
たつみ BM	都道 319 号線	たつみ BM	9